

きずな
友情の絆

第9号 2008



財団法人

東京海上各務記念財団

Tokio Marine Kagami Memorial Foundation

れます。

国民の行政に対する不満は行政の活動成果への赤信号であり、公務に携わる人間はそれに敏感でなくてはならず、批判が何を意味しているのか常に考え

ていかなければ人々の公務に対する真の信頼は勝ち得ないと意識して働く公務員に私はなりたいのです。

……と友人たちと酔っ払いながら生意気に語り合う、そんな私の学生生活です。



右から顔を出しているのが長内さん
(高校時代の友人たちとまだ肌寒い春先の銚子にて)

2008ろう学生リーダーシップ 養成夏季研修に参加して

渡邊 好行
(日本)

筑波技術大学産業技術学部産業情報学科3年
E-mail:a061135@a.tsukuba-tech.ac.jp

皆さん、初めまして。筑波技術大学3年の渡邊好行と申します。私が在学している筑波技術大学は約20年前に聴覚および視覚障害者のために創られた国立大学で、豊かな自然と先進的な研究教育の環境に恵まれた茨城県つくば市にある研究学園都市に建っています。

今日は、私がこの夏休みに経験したことを1つ紹介したいと思います。私は日本財団からの助成を受けて、2008ろう学生リーダーシップ養成夏季研修に参加してきました。この研修は、8月10日から16日までの1週間、イギリスのイングランド南東部イースト

サセックス州で行われました。アメリカのニューヨーク州ロチェスター市にある国立ろう工科大学に本部をおく、ろう学生高等教育機関の国際的な連合組織であるPEN-Internationalが主催するもので、この組織に加入している大学の学生が集います。今年は2006年に引き続いて2回目の開催で、4カ国のろう学生が集いました。日本からは筑波技術大学から3名、愛媛大学から1名、計4名のろう学生が参加しました。この研修には、日本の他にアメリカから6名、ロシアから4名、中国から4名のろう学生の参加がありました。本来は、フィリピンのろう学生も参加するという予定だったのですが、ビザの関係などで間に合わず、残念ながら不参加となりました。

今回の研修では、ろう者のリーダーとはどういう人か、リーダーの条件とは何か、などについて、実際にろう者として成功を収めた国立ろう工科大学の教員の講話を中心に学びました。また、社会における交渉術やボランティア、人間関係作り、ろう文化などにつ

いて様々なテーマで国を超えて学生同士で討論したりしました。それから、自国のろう者のリーダーについて紹介したり、文化の紹介を行ったりもしました。日本は、ろう者のリーダーとして障害者を差別した法律（欠格条項）を撤廃し、見事薬剤師になられた早瀬久美さんを取り上げました。文化の紹介では福笑いと二人羽織を紹介したのですが、福笑いを事前に3つ作っておいたり、二人羽織ができるように法被や手ぬぐい・日本のお菓子を持っていったりして、日本文化を参加者の皆さんに体験して頂きました。日本チームの紹介はこの「体験」を織り込んだことで予想以上に盛り上がり、時間がもっと欲しいくらいでした。

今回はリーダーシップ養成研修のため、講話を聞いて学ぶことがメインでしたが、休憩時間や食事の際

の学生同士の交流が私は一番印象に残っています。もともと昨年1年間アメリカ手話を勉強していたということもあって、脳をフル回転させてアメリカ手話や身振り、指差しなど様々なコミュニケーション手段を用いて会話をしました。また、互いの国の手話を教えあったりして話の輪が広がりました。なかなか通じないときには、他の学生が入ってきて「こういうことでしょ?」と色々通訳(?)してくれたりとても楽しく、「通じる」ことの喜びを味わいました。2年前、北欧に行き、現地のろう者と交流をしたことがありますが、今回のように1週間というのは初めてで、最後の日の朝は皆で涙を流しました。人と関わることの素晴らしさも改めて実感できた研修でした。



3列目右から2番目が渡邊さん
会場となったハーストモンシュー（Herstmonceux）城にて